

初の安全大会開く

繁忙期迎え意識新たに

市建設業協会
ひたちなか市建設業協会



千葉理事長



杉山水戸労働基準監督署安全衛生課長



石川労働安全衛生コンサルタント事務所の石川所長

ひたちなか市建設業協同組合（千葉和男理事長）は1日、組合主催による初の安全大会を水戸市の県建設技術管理センターで開催した。組合員など67人が参加。水戸労働基準監督署の杉山満安全衛生課長、石川労働安全衛生コンサルタント事務所の石川恒男所長を講師に招き、あらためて安全衛生の大切さを学ぶとともに、現場の労働災害

ゼロを誓った。大会の冒頭、千葉理事長は「これから年末年始にかけて完成工期が迫る時期となる。労働力不足などが原因で安全がおろそかになる恐れがある。無災害で年度末を迎えられよう、きょうの大会を



現場の安全管理をあらためて学んだ

有意義なものにしてください」とあいさつした。

講演に移ると水戸労働基準監督署の杉山課長が「建設現場における留意点や最近の事故事例および注意事項」について解説。一現場では転倒災害が増加している。原因

は、滑り・つまづき・踏み外しの3点が考えられる。転倒しにくい靴選びや危険表示を設けるなどして対策を講じてほしい」と注意喚起した。

石川所長は建設機械による事故事例について、映像



脚立の安全な設置について説明

衛生コンサルタント事務所

を使いながら紹介。「建設現場における死亡事故では、運転者が加害者、周辺の作業員が被害者になる例が多い。思い込みでの行動を排除し、相手の気持ちを考えた作業を進めること。安全を意識してほしい」と呼び掛けた。

屋外で行われた実地講習では、脚立の安全な利用方法や、安全帯の正しい取り付けについて学んだ。石川所長は「最近現場も安全になり、ヒヤリハットも少なくなってきた。しかし、作業員に対しては決して妥協せず、安全への注意を促してほしい」と強調した。

最後には参加者全員で安全標語を唱和し、現場における労働ゼロの誓いを新たに誓った。